

調布市『いのちと心の教育』月間の取組



2020年12月

調布市『いのちと心の教育』月間の取り組み

調布市の小・中学校は、平成24年12月に市内小学校で発生した事故を風化させない取組として、毎年12月を「いのちと心の教育」月間と位置付け、自他の命(いのち)を大切にし、一人ひとりの違いを認め合う道徳授業の充実を図る取組や、児童・生徒が食物アレルギーについて正しく理解を深める取組を行っています。

各小・中学校では、この取組を通して、豊かな心と健やかな体を育む教育活動に取り組んでいます。

また、教職員に対しては、食物アレルギーに対する認識を深め、未然防止の取組や緊急時の適切な対応法を習得するための研修を行っています。

本校でも、『命の大切さ』について、全校朝礼(放送)での校長の講話、各学級での道徳授業を実施しました。

全校朝礼 校長講話

2020.11.30

命の大切さ「恵まれた環境で心のみがく」

道徳授業

2020.12.9

1年生 3.4時間目
2.3年生 4時間目

第3学年 命をいとおしむ

たとえぼくに明日はなくとも



1955年生まれの故・石川正一さんが筋ジストロフィーという自分の病気や「生きる」という命題に向き合い、人生を駆け抜けたその歩みをまとめた著書

限りがある
かけがえのない
自分の『命』
あなたは見つめ直す
ことはできましたか？

『無題』 石川正一

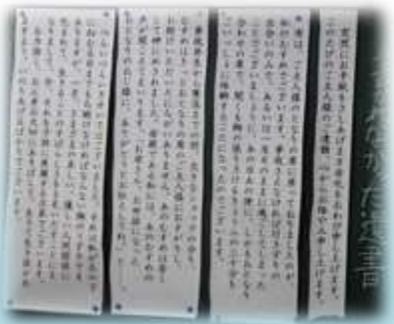
たとえぼくに明日はなくとも
たとえ短い道のりを歩もうとも
生命は一つしかないのだ
だからなにかをしなくてはならない
一生けんめい心を忙しく働かせて
心のあかしをすること
それは釜のはげしく燃えさかる火にも似ている
釜の火は陶器を焼き上げるために精いっぱい燃えている
陶器を焼き上げる釜の火は美しい
良い作品を生みだそうと
精一杯燃えているからだ

そして 真剣に生きる人間の姿も また美しい
悔いのない人生を送ろうと
精一杯燃えているからだ
完全に燃え尽きること
それを目指して 生きていきたい
人間の心なんて
積み木みたいなものなんだね
ちょっとさわれば
すぐくずれてしまう
だから神様の根を
心の中にたくさん
はらしておかなくてはならない



第2学年 生命の尊さ
書かれなかった遺書

一九八五のジャンボ機墜落事故で大学生の娘を失った母親が、機内で娘の隣の席に座って同じく犠牲者となつた中年男性のご遺族に宛てて書いた手紙



第1学年 生命の尊さ
決断！骨髄バンク移植第一号

骨髄バンクとは・・・

白血病や免疫不全などの治療に行われる骨髄移植の推進のために設けられた制度。患者と骨髄提供者（ドナー）の間で主要組織適合抗原（HLA）と呼ばれる白血球の型が一致しないと、移植の成功率が低下します。



3時間目に視聴 プロジェクトX
挑戦者たち 命懸け ゼロからの出発
決断 命の一滴/白血病・日本初の骨髄バンク



骨髄バンクの設立と最初の骨髄移植を資料化したもの。
一人のドナー登録者(田中さん)が血液の適合を告げられ、すぐに提供すると答えたものの、恐怖と使命感・・・手術が近づく中、心が揺れ・・・
そんな葛藤がありながらも田中さんは、腎臓を提供する決断をしました。手術は無事成功。田中さんは提供された橋本さんとしっかり手を握り合い固い握手をすることができました。

針が怖い

体を傷つけてまで提供できない。

断る

提供

人の役に立ちたい。

家族から反対されると思う。

大切な命を救って希望をあげたい。

最愛の娘が亡くなった悲しみを乗り越え、他人の家族を励ます、そして、ともに支え合いながら生きていこうとする母の思いが綴られた手紙・・・みなさんは何を感じましたか？

もし骨髄を提供して、自分だけでなく相手にも何か起ったらと思うと不安。

医者でなくても誰かの命を救うことができるから。

田中さんの揺れる心の中にはいろいろな思いが渦巻いていました。そんな田中さんが骨髄を提供する決心をした背景にあったものはなんだったのでしょうか。

断れば助けられる命を無駄にしてしまう。

